



パンフレット No.AG006  
2016年3月改訂  
工 業 用

ナイロン用防染剤

## ユニオナル S N

( U N I O N A L S N )

ナイロン／綿、ナイロン／レーヨン混紡・交織品の染色においては、綿、レーヨン用染料である直接・反応染料がナイロン側に汚染するため、色相のくすみや再現性不良、堅牢度不良等のトラブルが生じやすくなります。

また、ナイロン／ウールの染色においては、ウール側に比べてナイロン側により多くの染料が染着するため、同色性に欠けた不均染染色となりがちです。

ユニオナル S N はナイロン側に作用して、直接・反応染料のナイロン汚染防止剤として、ナイロン／ウールの同色化剤として優れた効果を発揮します。

### 性 質 ・ 性 状

外 観	黒赤褐色～黒褐色液体
成 分	多価フェノール誘導體
イ オ ン 性	アニオン
p H	約 4.5 (1%水溶液)
溶 解 性	任意の割合で水に溶解します。

(上記の数値等は代表値であり、規格値ではありません。)

### 特 徴

1. ナイロン／ウールの染色において、ナイロン側の染着を抑え、同色染めを可能にします。
2. ナイロン／綿、ナイロン／レーヨンの染色において、直接・反応染料のナイロン汚染を防止し、ナイロンの白残しを可能とします。
3. 前処理法によりナイロン／ナイロンの片染め(白残し)、または濃淡染めを可能にします。



## 使 用 方 法

### 1. ナイロン／ウールの同色染め

ナイロン／ウール混紡・交織品の染色においては、一般にウール側に比べてナイロン側が濃く染色されます。このとき、ユニオナルSNを添加することでナイロン側が防染され、ナイロン／ウールの同色染めが可能となります。

標準使用量は染料の種類・濃度、処理物の種類・形態、混率によっても異なりますが、ナイロンに対して1～6%o.w.f.です。

### 2. ナイロン／綿、ナイロン／レーヨンの染色（ナイロンの防染）

#### ① 直接染料を用いる場合

混率により異なりますが、ユニオナルSNを染浴に1～6%o.w.f.添加し、常法により染色します。（綿、レーヨン側の濃度が出ない場合はソーダ灰等を加えてpHを7付近に調整して下さい。）

#### <実施例>

試 料：ナイロン／レーヨン（50／50）布

染料1：Direct Fast Yellow R 0.25%o.w.f.

ユニオナルSN使用量	ナイロン側汚染度 (グレースケール)
1%o.w.f.	3級
2%o.w.f.	4級

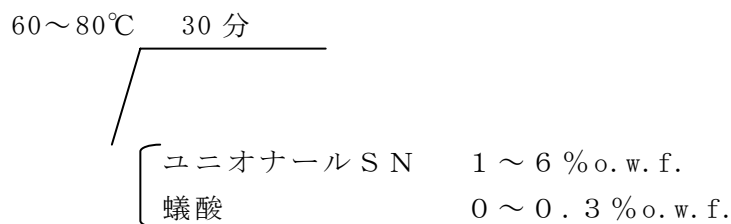
染料2：kayarus Supra Blue 4BL conc 0.65%o.w.f.

ユニオナルSN使用量	ナイロン側汚染度 (グレースケール)
1%o.w.f.	4級
2%o.w.f.	4～5級



② 反応染料を用いる場合

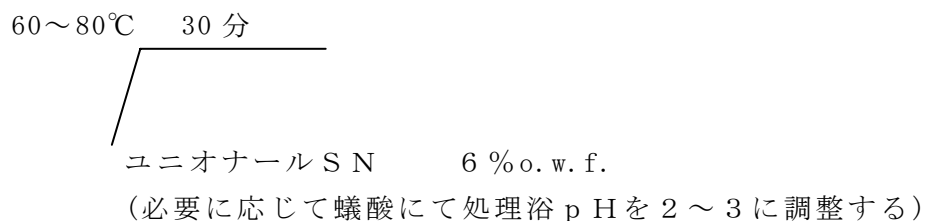
下記条件でユニオナル SN の前処理を行ってから、同浴または別浴にて、常法による染色を行って下さい。



3. ナイロン／ナイロン片染め

まず、下記処法により防染糸を作成した後、この防染糸とレギュラー糸の交織布を染色することにより、片染め、濃淡染め布が得られます。

防染処理



ご 注 意

使用に際しましては充分試験の上ご使用下さい。

入 目

1.8 kg



ユニオナル SN

### 取扱いおよび保管上の注意事項

本品は揮発性の溶剤を含有しております。その蒸気を吸入すると中毒をおこすおそれがありますので、取扱いにあたっては下記の注意事項をお守り下さい。

- 1) 取扱い場所は火気厳禁とし、局所排気装置を設けて下さい。
- 2) 容器から出し入れするときは、こぼれないようにして下さい。
- 3) 取扱い中は、保護手袋、保護メガネ及び必要に応じ防毒マスク、送気マスクなどを着用し直接身体に触れないようにして下さい。
- 4) もし誤って眼や口に入ったときは、直ちに流水でよく洗い流し、速やかに医師の手当てを受けて下さい。
- 5) 皮膚に直接触れた場合は、直ちに流水でよく洗い流して下さい。もし発疹その他の異常が生じた場合は速やかに医師の手当てを受けて下さい。
- 6) 取扱い後は手洗い、うがいを充分に行ってください。
- 7) 使用途中の容器は密閉し、異物が入らないようにして下さい。
- 8) 保管に際しては関係法令に従い、直射日光を避け、冷暗所（5℃～35℃）で保管して下さい。
- 9) 廃棄するときは、産業廃棄物として処理して下さい。

### お 願 い

弊社発行の「製品安全データシート（SDS）」を用意しております。  
併せてご活用下さい。